

## 授業に関する学生・教員交流会

### 1. 企画趣旨

授業に関する学生・教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケートでは拾いきれない学生の直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。2013年度～2017年度は、授業アンケートに関する話題が中心であったが、2018年度からは、授業全般について話題が広がり、2019年度以降は、学びの当事者である学生が主体となる学習環境の改善に話題が及んだ。2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応して、交流会自体もZoomで開催された。2020年度は、この未曾有の事態のため余儀なく始まったZoom授業に関して様々に振り返りながらも、より良い学びのための意見交換がなされ、2021年度は、Zoom授業のメリット、デメリットについて討議するだけでなく、ピア・サポート制度についても意見交換した。

表1 授業に関する学生・教員交流会のテーマ（2013年度～2021年度）

開催年度	テーマ
2013年度～ 2015年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2016年度	授業アンケートをもとにした授業改善について／授業アンケートに関する教員コメントの内容について／その他
2017年度	時間割の要望について／授業の進行方法について／授業改善の要望について／授業・講義に関すること／その他
2018年度	授業レベルについて／到達目標について／授業外学修について／授業・講義に関すること／その他
2019年度	トークテーマ1 学生FDの企画内容／トークテーマ2 学生FDの体制づくり ／トークテーマ3 学生によるカリキュラム開発
2020年度	トークテーマ1 Zoom授業をふり返る／トークテーマ2 おすすめ授業を共有する ／トークテーマ3 理想の授業を創ろう
2021年度	トークテーマ1 Zoom授業を振り返ろう／トークテーマ2 困りごとを共有する ／トークテーマ3 ピア・サポート制度について

さて、2022年度はこのような流れを受け、在学生1～4年生が、社会情勢に対応して様々に変えられてきた授業形態を経験してきたことを踏まえ、「これからの時代の授業の在り方を考えようーオンライン・ハイブリッド・対面授業を経験してー」をテーマに、新しい授業形態、教育の取り組みを考える会にしたいと考えた。

在学生の経験した様々な授業形態とは次のようなものである。全面的に対面授業（2019年度まで）、全面的にオンラインによる授業（2020年度前期）、登校する学生数を半分に抑えたハイフレックス型の授業（2020年度後期～2021年度後期）、全面的に対面授業としたがコロナ案件による登校停止に対してはハイフレックス型オンライン授業の受講を認める授業（2022年度前後期）。

この〈オンラインによる〉という新しい授業形態は、もともとのような授業実践方法が研究されていたこともあり、従来の常識に捉われない、幅広い教育の可能性を追求する場となったとも言える。

そこで今回の交流会では、この様々な授業形態を経験し、とりわけ全面的なオンライン授業から大学生活が始まった現3年生を中心に1、2、4年生も交えながら、オンライン授業と対面授業を振り返り、これら双方の授業形態から感じ考えたことを忌憚なく述べてもらうことで、今後の大学の授業の在り方について一定の方向性を見出すことを目的とする。

## 2. 実施概要

### ■学生募集

期間：2022年12月9日～12月16日

募集方法：メール告知とFD委員による声かけ（各学科2、3人選出）

申し込み方法：Microsoft Forms

### ■当日の記録

【日時】2023年1月12日（木）5時間目

【方法】原則対面開催。コロナ案件に限りZoom参加

【場所】751 アクティブラーニング教室

【参加者】24人（学生16人 教職員8人）内学生1名Zoom参加

#### （1）プログラム

1	開会挨拶、趣旨説明	10分
2	グループワーク（自己紹介を含む）	40分
3	グループ発表（各5分×4グループ）	25分
4	振り返り	10分
5	閉会挨拶・アンケート記入	5分

#### （2）交流会の目的

企画趣旨に則り、世界的に様々な講座がオンラインを使用して安価に開催されている実例なども示しながら、自分たちが経験したオンライン授業、或いはオンラインと対面が混合した授業を通して見えてきたことを教員も含めて話し合い、思考のための視野を広げて、双方の良さを生かした新しい授業の可能性について考えることを目的とする。

### (3) グループミーティングの編成

グループの編成は以下の通りである。

グループ1：2 学科（幼教2名・心理1名）、教員2名（幼教・心理）

グループ2：2 学科（文芸3名・福祉2名）、教員1名（文芸）＋職員1名

グループ3：3 学科（心理1名・健康1名・社デ1名）、学科教員2名（健康・社デ）

グループ4：2 学科（児教2名・食品2名）、教員3名（児教・食品）＋職員1名

Zoom グループ：（幼教1名）、教員1名

### (4) グループミーティングの進め方・グループ発表の方法

当日は、(3) で示したように4つのグループに分かれミーティングを行った。欠席者がいたため、1グループにつき、学生は3名～5名、教員は1～2名となった。

ミーティングはブレインストーミングの形式で自由に話し合い、アイデアを付箋に書きだしてグルーピングし模造紙上に整理、タイトルを考え、ポスターを作成。ポスターを示しながらグループごとに発表した。

### (5) グループミーティングの結果

以下より、各グループのミーティング結果を示す。

#### トークテーマ1 オンライン授業ならではの「良さ」は？

このテーマに関しては昨年と同様の意見・授業資料がみやすい、・チャットで質問ができる、・ブレイクアウトセッションで普段関わらない人と話すことができる、・自分のペースで進められる、・慣れた環境（自宅）で授業を受けることができる、・デジタルへの対応力が向上する、・通わなくてよいので時間短縮ができる（睡眠時間の確保ができる）、・通学費がかからない等以外に、服装など気軽に授業参加でき、空き時間を自由に使えるなどが挙げられているが、今回のテーマ設定によって触発されたと考えられる意見に着目したい。それは以下のとおりである。

- ・コロナや体調不良時でも授業の出席が保障される。
- ・離れたところにいるスペシャリストにインタビューできる。
- ・出られるインターンや会社説明会が増える。
- ・受講人数制限がなくなる。
- ・まわりが目に入らず集中できる。静かに授業を受けられる。

この最後の意見にも見られる「まわりとの関係」についてはトークテーマ2 では反対の意見もあって興味深い。

トークテーマ2 対面授業ならではの「良さ」は？

トークテーマ1の最後に挙げた「まわりとの関係」について言及している意見として、・周りが集中しているのが見えて焦る。自分も頑張れる、・皆が大事そうなところをメモしているから自分も書き漏れがないという意見が挙げられる。対面の方が・自然と集中できる、・適度な緊張感があるという回答もあった。

当然のことではあるが、相手の表情が見えることを評価し、深いかわりを持てることを指摘する声も多い。・グループワークがやりやすい（互いの表情、反応がわかる）、・互いに相手を考えて進めていくことができる、・全体としての意見交換がしやすい、・自分の発言場面にあまり不安を感じない、・友達と話し合いながら受講できる（いろいろな意見を聞ける）、・誰かの提案、アイデアを周りの人がふくらませたり実現しやすい等。

対面ならではの可能になることとして、・授業後に質問に行ける（文章では伝わらないニュアンスも伝えられる）、・気になったことや疑問をその時間内に解決しやすい、・ちょっとしたおしゃべりの時間がある、・休み時間に先生と話しやすい、・友達を作りやすい、・先生や皆に会えると楽しい、・学校に来て気付けることがある等が挙げられた。

その他、・機材を使える、・印刷代が浮く、・実習ができる、・気軽に質問できる、・実技科目は直接の方がわかりやすい、・頭の中に内容が入ってきやすい、という意見があった。

トークテーマ3 オンライン・オンデマンド授業に向いている科目、向いていない科目とは？

このテーマに関しては具体的な科目が挙げられたわけではなく、授業の性質から捉えられている。

**オンライン・オンデマンド授業に向いている科目：講義**

- ・教養科目を中心とした講義科目で、教員から学生への一方向による学びの授業（履修人数制限がなくなり希望する科目を全員が履修できる）。
- ・テストが暗記中心の科目は繰り返し視聴できるオンデマンド授業が効果的。
- ・各自が作業したり、覚えることの多い授業、その他、人数が多すぎる授業、発表系、パワポの発表の授業（パワポが見やすい）、自分で考える授業、テストが暗記物だったりする授業、学生に意見を求めず、一方的に話している授業といった回答があった。

**オンライン・オンデマンド授業に向いていない科目：実習、実技系の科目**

- ・実践系、実技系科目、事例検討等のディスカッション形式の授業やグループワークは、対面でその場の雰囲気を感じながら進めたほうが良い。その他、映像を見る授業、パソコンを用いた授業、グループワークが挙げられた。

トークテーマ4 これからの授業形態の可能性

ここで挙げた意見には、同じ授業をオンラインでも対面でも受けた経験から考えられたと思われるものもあり、教員への新しい気づきの提案にもつながると考えられる。

- ・オンラインの良さ、オンラインならではの経験を対面でもいかしたい。(オンライン授業で自宅にいたがどこでも絵を描けるところを探して描こうという課題があり、家の外に出て道路に落書きしたら、道行く人の反応が面白かった。学内での授業にもこうした自由さ、開放感がとり入れられたらよいと考えた。)
- ・対面がいいのだが、対面だと実習中の先生のお手本の細かい動き等見えにくい。そういうところはオンラインだとそこだけ映るのが良かった。だが対面でもそういった部分を拡大して映したり、資料を配布したりするなど工夫して充実させることはできると思う。
- ・先輩の経験を共有するためには、オンライン授業での発表動画の場面を保存し、アーカイブ化して後輩が視聴できるようにする。実習に向けて何をどの程度準備したらよいか見通しが持てる。
- ・学びの内容を共有するために、授業内容を動画として公開し、学生間で共有できるようにする(学内データベースとして構築)

また、オンライン・オンデマンド授業と対面授業を混合して行うというデザインに関しては以下のような意見がある。

- ・知識を定着させる授業はオンラインで。
- ・基本的に対面がよいが、オンデマンドにすることで他学科の受講にも幅が広がるのではないか。
- ・曜日で対面の授業を受ける登校日を決め、対面の日は1時間目を少し遅くする(時差通学)
- ・オンラインを選択しやすくする(インターンシップやボランティアなど授業外での学びを広げる)
- ・遠方や企業の方をオンラインでつないで幅広く、視野広がるような授業を受けたい

その他、最適な受講形態について授業ごとにアンケートをとる、事前学習を効果的に授業に活用する(反転授業)という意見もあった。

### 3. 事後アンケート

事後アンケートを学生、教員に向けて実施した。提出は Microsoft Forms である。

#### (1) 学生

##### ① 交流会の参加について

参加してよかった	14
普通（特になし）	2
参加しなかった	0

##### ② 参加学生や教員に自分の意見を伝えられたか

伝えられた	9
まあまあ伝えられた	7
伝えられなかった	0

##### ③ 交流会は、今後も実施したほうがよいか

実施したほうがよい	13
どちらでもない	3
実施しなくてもよい	0

自由記述欄の意見から

#### 【良かった点】

- ・他学科の意見も聞けて参考になった。（多数）
- ・オンライン・対面授業のそれぞれの良さを改めて感じることができた。
- ・今後の大学の授業形態の可能性を感じることができた。
- ・オンラインはデメリットばかりだと思っていたが、それだけ改善策があり、またメリットもたくさん見つけることができた。オンラインも有効活用し、より良い学びにつながればいい。
- ・学科によって学びが全く異なるので知らなかったこともあり、とても興味深かった。
- ・グループの人数が少なかったこともあり、とても話しやすい会だった。
- ・先生の想いがより伝わってきて、これからも勉強を頑張ろうと思えた。
- ・オンデマンド・リモート・対面は共存共栄で良いと思った。
- ・ある種これからリモートも使う必要がある社会になっていく中で良い経験になった。
- ・友達を作ることが大切だなと改めて感じることができた。
- ・授業のアーカイブを残すことがとても良い意見だと思った。
- ・授業のやりやすさで考えてしまったが、それ以外でのオンラインか対面のメリットの意見も多く、参考になった。

**【改善してほしい点・要望】**

交流会について

- ・もっと時間があつたらさらに深いところまで話し合うことができた。
- ・席指定だと不安は少ないが交流が広がりにくい。
- ・昨年も参加したが、学生の意見や考えが全く反映されなかった印象を受けている。「学生の声を聞いてほしい!」と言うことを強く望んでいる。
- ・交流会で出した意見への返答が欲しい。

学生生活全般について

- ・学校の Wi-Fi を強くしてください。
- ・必修の実習なのに公欠にならず欠席になってしまうことが不思議だと感じる。
- ・Zoom での参加の条件が学科ごとに異なるのは意外だった。学科ごとのルールの差は、統一すべき部分(コロナ関係の出席等)とそうでない部分を見極めて再考すると良い。
- ・オンラインで受けても良い場合の基準を下げてほしい。
- ・1 限に人数が集中するような科目は、十文字の立地(アクセス)を考へても減らせるようにしてほしい。
- ・オンラインやオンデマンドを上手く利用することで、今は他学科開講科目とされていない科目もいつか開講されると良いと思った。

**【今後に向けての提案・要望】。**

- ・学科別でこのような会を開いてもよいのではないか。
- ・他大学や同じ学科でも学年を集めての話し合い、交流会もしてみたい。
- ・他学科や他学年と話すのは貴重な時間だと思うので、別の題で同じ機会を設けるといい。
- ・5 限じゃない時間にやったら、参加者が増えるのではないか。
- ・3 年間参加したが、この会は Zoom の方がやりやすく感じた。オンラインの方が、紙よりもまとめやすい。
- ・昨年までは、悪口大会になりがちだったから、話し合う内容をよさやメリットに限定したのだと思うが、デメリットはメリットでもあることもあるので、総合的な話し合いに発展できればいい。
- ・このような活動の知名度を上げた方が良い。

(2) 教員 (回答6名)

①交流会の参加について

有意義だった	6
普通 (特になし)	0
よくなかった	0

②学生の直接的な声を聞くことができたか

できた	5
ある程度できた	1
あまりできなかった	0
できなかった	0

③交流会の企画継続について

実施したほうがよい	6
どちらでもよい	0
実施しなくてよい	0

④次回開催に向けてのアイデア (自由記述)

- ・授業実施方法に関するテーマを引き続き議論できるとよいのではないかと
  - ・まずは委員会での振り返り。学生の声を拾って実現できることは実現し、ホームページでFD委員会の取り組みとして掲載。ユニパの掲示でも掲載。
  - ・学生からあがった意見を、少なくとも教授会で具体的に報告する。
- できれば大学問題研究会で交流会での学生の報告ビデオを視聴する等、全教員が共有する場を設けるべき。
- ・交流会でまとめた模造紙を写真とともに7号館1階にしばらく掲示する。また、掲示と併せて他の学生からも本日のテーマについて自由に回答できる(forms)ようにするのはどうか。
- また、交流会のテーマは学生の希望を聞いて設定してもよいのではないかと思う。
- ・学生ならではの発想を聞き、本学の改善点を知るなら、テーマを絞り込みすぎず「ここが変だよ十文字」「私の理想の授業」など自由度の高い意見交流会にしても良いと思う。
  - ・学生から学生への口コミ、学生による広報(交流会の成果の発信)ができれば良い。
  - ・参加者の中から次回のファシリテーターを育てる
  - ・オンライン受講について、学科でその対応が異なるという意見があったが、このあたりの意見は教職員側で受け止め、なんらかの回答ができたらと思う。



#### ⑤意見、感想、改善点

- ・久しぶりの対面開催で出だしが遅れたことは反省点。もう少し早く準備を立ち上げるべきだった。
- ・社会情報デザイン学科3年生は就職ガイダンスとかぶり、何人かに声掛けしたが全滅だった。本日の参加学生は、すでに3回目、2回目という人もいて、特に報告を担当した学生はベテランだった。年一回だけでなく、学期毎に実施するなどして、ベテラン学生を養成するとよいと思う。
- ・学生の意見、提案を真摯に受け止め、1つでも実現できるようにFD委員会で協議していくことが重要と考える。
- ・今回は対面／遠隔授業の長所短所を挙げ、今後の望ましい授業形態が見えてくることを目指したが、学生によって対面と遠隔のどちらが授業に集中しやすいか、教員に質問しやすいか、グループワークがしやすいと感じるかが様々で、オンラインやオンデマンド型にふさわしい科目を選び出すのは簡単ではないと分かった。  
オンライン受講を出席扱いとするか、学科によってルールが違うという問題は興味深かった。対面で模擬授業の指導者役や実技を経験した学生と、遠隔で聴講した学生を同じ出席(アクティブ参加)とすることに疑問を感じるからである。オンラインでの受講なら7~8割の参加度とする等、一律に決めることは可能なのか、その場合に配慮願いが出ている学生は例外として10割の参加とするのかといったこともあり、複数の授業形態を同時に使える便利さと難しさの両方、そして全ての人にとって良い方法はないというもどかしさを感じた交流会だった。
- ・ハイフレックスで行うというチャレンジングな会だった。

#### 4. まとめ

企画の趣旨を汲んで今回の参加者は圧倒的に3年生の参加が多く、中には過去の交流会にも参加してきた学生も複数人いた。そのおかげか、3年ぶりの対面開催であったが、ディスカッションやまとめ、発表に至るまでスムーズな流れで活発な討議、意見交換がなされた。教員も入って意見を出し、先生の気持ちがわかって良かったという意見もあった。

オンライン・オンデマンドと対面の授業、それぞれの良し悪しを捉えながらも、経験したその良さを双方に生かそうという発想が学生にあり、教員にとっても授業を考える際の大きなヒントを見いだせた会であったと思う。授業は学生と教員の両方で作っていくものであり、今後こうした交流会を重ねて、より良い学びの場の実現につなげていきたいと考える。

近々の課題は学生たちが強く望んでいる、出された意見へのフィードバックであろう。施設面での要求などすぐには対応できないことも、見通しを示すなど、交流会の成果を示すことが今後の交流会の発展のために欠かせない。FD委員会として提案、改善すべき課題も明確になった会であった。

以上